



文部大臣賞の賞状とトロフィー。
父の浩一さん(左)からは
いろいろな大切なことを教えてもらった。



たかみ
たいし
高見大志さん(引水)

太鼓とともに育った彼は
これからも成長を続ける

大津太鼓が世界一に。8月に開催された「世界和太鼓一人打ちコンテスト」で高見大志さんが優勝し、文部大臣賞に輝いた。子どものころから太鼓を打ち続けた一人の男はついに頂点に登った。しかしそれだけなら簡単なことだと彼は言う。彼が望む先とは――。

「バチを持って生まれてきたようなものだからね」。その言葉のとおり、彼が生まれたときから大津太鼓があり、物心ついたときには太鼓のバチを持っていたし、太鼓が家に無いときでも廃タイヤをたいたいでいた。

大志さんの頭の中には常に太鼓があったが、小さいころは太鼓が嫌いだった。練習もサボりがちだった彼が太鼓を面白いと感じるようになったのは中学生になってからだった。「同年代の子どもたちとは違って、大人たちと一緒にたたく太鼓がたまらなくなつていく、楽しかった」と笑顔で当時を振り返った。

太鼓を教えてくれた父には今でも感謝をしている。「礼儀には厳しかったですね。でもそれが今でも役に立っています」父が認める音感の良さと礼儀作法が彼を世界まで導いてくれたのかもしれない。

「大津町の皆さんには本当に感謝しています。これからも自分の和太鼓を少しでも多くの人に聞いてもらいたいし、日本の文化である太鼓を知って欲しいですね」

仕事をしながら太鼓を続け、高みを目指していくことは容易ではない。彼は悩んで悩み抜いて、これからも成長を続けるいく。

ついでの声

▼情報があふれて情報過多にあるこの時代、情報を簡単に手に入れることができるということは考えられないことも少なくなってしまうのだろうか。情報は決してそれに動かされるものではなく、信念や自分の価値観の後押しになるものだと思う。昔の人が何十年もかけて学んできたことを今は一瞬で知ることができる。それが力のおかげではないはず。自分の人生を振り返ってみれば、経験を重ねることが最大の情報収集になっていった▼知ることと経験することは同じ意味ではないことを心に入れておきたい▼広報おおづに掲載している情報を処理するのは読者である皆さんです。読んで自分なりの考えを持っていくようにしましょう。

(社口)

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報
おおづ

広報おおづ 2010 12

発行・編集 ■大津町・企画課
〒899-1292 熊本県菊池郡大津町大字大津 1233 番地
TEL.096 (293) 3111

ホームページアドレス
<http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

PC100

印刷 ■ホーア印刷株式会社
※この広報誌は事前に配達して再生紙及び大豆インクを使っています。

かいらいも掘った
思いをいっしょに
掘ったよ

12
DECEMBER 2010

